



和歌山市教育の情報化Wプロジェクトの取組

2007年度 小学校教育用コンピュータシステムの更新
 タブレットPCを全国に先駆けて約1300台を導入
 「ICTを活用した学力向上のための研究」Wプロジェクト
 「NEXTプロジェクト」に参加 (MS&メディア教育開発センター)
 教員研修体制の強化・内容の充実

2008年度 タブレットPCの教育効果の実証研究 (大規模調査)
 NEXT・Wプロジェクト実証研究の成果発表

2009年度 「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」 (文部科学省)
 全教室に電子黒板を整備し、その効果の実証研究 (モデル校2校)
 「和歌山市子ども元気アップ大作戦」 (経済省ユビキタス特区事業)
 研究協力校、市内特別支援学級で活用研究 (iPod touch 850台)
 「学校ICT環境整備事業」 (文部科学省)
 各校1台の電子黒板、教育用PC、校務用PC、プロジェクタ等を整備

2010年度 「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」 (総務省)
 電子黒板、タブレットPC、デジタル教材、ICT支援員を整備

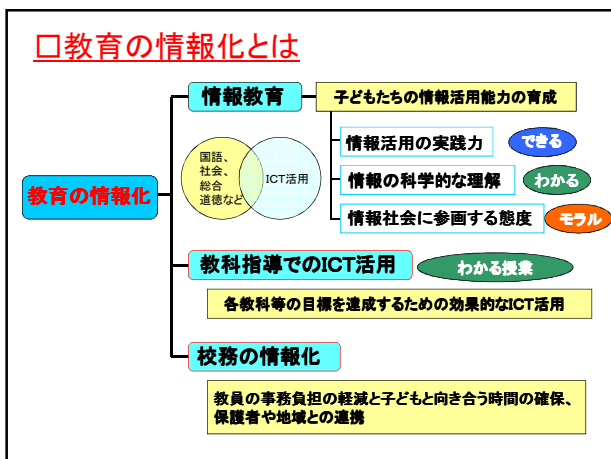
和歌山市教育の情報化Wプロジェクトの取組

学校教育の情報化

授業が変わる → 教科指導でのICT活用
 学校が変わる → 校務の情報化
 子どもたちが変わる → 情報教育

子どもたちの情報活用能力の育成

できる わかる モラル



- #### 「教育の情報化」の基本的な考え方
- 「情報活用能力」を育成
 情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成
 - 「わかる授業」を実現し、「確かな学力」を向上
 各教科等における効果的なICT活用により、基礎・基本の習得、思考力・判断力・表現力の育成など「確かな学力」を身につけさせる
 - 「校務の情報化」の推進
 教員の校務を軽減化・効率化し、児童生徒に対する教育の質の向上を図るための校務の情報化

□情報教育の体系化

「情報教育」=「子どもたちの情報活用能力の育成」の3観点と8要素

情報活用の実践力

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達能力

情報の科学的な理解

- 情報活用基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

情報社会に参画する態度

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

3観点相互の関係を考え、児童生徒の発達段階に応じバランスよく身につけさせることが重要

□ ICT活用によって期待される教育的効果

ICT活用による7つの教育的効果
⇒ 子どもたちに付けたい「確かな学力」

① 基礎・基本の確実な習得

② 子ども一人ひとりの力の伸長 **習得型**

③ 学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上

④ 思考力・判断力・表現力の育成

⑤ 学び方、問題解決能力の育成

⑥ 創意工夫を生かした質の高い授業づくり **授業改善**

⑦ 障害のある子どもの障害に基づく種々の困難の改善・克服、社会とのコミュニケーションの拡大 **特別支援教育**

これらを目指す

活用・探求型

個に応じた教育

文部科学省 ITで築く確かな学力～その実現と定着のための指針～
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/021/toushin/020901.pdf

□ コンピュータ教室でのPC活用例

「機械」としての役割 教育そのものを機械に代行させる

教師

⇒

コンピュータ

・だれがやっても同じ結果

・教師が必要でなくなる

「道具」としての役割 教師の授業を支援する

教師

⇒

教師
コンピュータ

・教育をするのは教師自身

・教師には新しい力が要求される

CAI(Computer Assisted Instruction) コンピュータ支援授業

CAI(Computer Assisted Instruction) コンピュータ支援授業

「道具」としての役割 教師の授業を支援する

- ・教育をするのは教師自身
- ・教師には**新しい力**が要求される

習得型学習の場合
(児童・生徒が活用)
スタディアドハンス
小学館ドラゼミなど

教師

ゴール


コンピュータ

スタート

コンピュータ等を効果的に使いこなす力

(聖心女子大学・永野)

個に応じたWeb学習教材 スタディ・アドバンス



<https://www.kii-manabi.jp/student/> <https://www.kii-manabi.jp/teacher/>

児童・生徒用入口 教師用入口

和歌山市における教育の情報化の課題と取組 － 和歌山市Wプロジェクト－

1. 和歌山市の現状と課題
タブレットPC導入の背景と課題
2. 教育の情報化を推進するWプロジェクト
プロジェクトとして取り組むメリット
3. Wプロジェクトの取組と成果(具体例)
 - ① 人材育成の場・機会・環境
 - ② 研究はICTの可能性を広げる(先進的な研究)
 - ③ 教員のICT活用指導力調査を活かす
 - ④ 研修と活用によるICT活用促進(主体性の尊重)
 - ⑤ 特色あるICT環境整備を目指す(目的の明確化)
4. 今後の取組

和歌山市の現状と課題

□タブレットPC導入の背景と課題

〔背景〕 学力向上への願い⇔厳しい財政状況
⇒限られた予算を効果的に活用する必要
研究の視点＝「ICT活用」＋「学力向上」
⇒学力向上に特化したシステムの実現

タブレットPC ⇒ 「手書き」システムの導入

〔目的〕 ICTを活用した学力向上

〔課題〕 教員のICT活用指導力の向上

〔Wプロジェクト2007の取組〕

- ① 教育情報化の核となる人材育成
- ② ICT活用効果の実証研究(調査研究)
- ③ ICT活用を支援する研修の充実

和歌山市Wプロジェクト2007・2008

和歌山市全体の取り組み

基礎学力の向上

研究調査の分析結果

□Wプロジェクトの調査研究

■Wプロジェクト2007の取組 (小学校52校、児童20,169名)
 ○研究テーマ: タブレットPC活用による基礎学力の向上
 ○研究内容 A: 小学館手書きデジタル学習システム活用と学力向上 (5年生2,605名)
 B: 全教員への意識調査 (小学校教員1,050名)
 C: 年2回のICT活用指導力調査 (小学校教員1,050名 + 中学校558名)

■Wプロジェクト2008の取組 (小学校52校、児童20,039名)
 ○研究テーマ: タブレットPC活用による基礎学力向上 + 各教科等でのICT活用
 ○研究内容 A: 各教科等でのICT活用と学力向上 (のべ86学級 児童2,348名)
 B: 小学館手書きデジタル学習システム活用意識調査 (3年~6年 児童13,515名 + 教員1,048名)
 C: 年2回のICT活用指導力調査 + 意識調査 (教員1,048名 + 中学校558名)

<調査研究で使った主なシステム>

- **タブレットPC 1,300台** (UMPC含む)
- <習得>** **小学館手書きデジタル学習システム** (漢字・計算、国語、社会、算数、理科)
 ステディアドバンス (国語、社会、算数、理科、英語)
 手書きデジタル学習教材 (百ます計算、都道府県等)
- <活用・探究>** **OneNote**、**エンカルタ** (百科事典)
 描画ソフト (キッドボックス、ゆめいろのえのぐ) 等
- **W-ZERO3 324台** **スタディノート**・**ポケット** <活用・探究>

NEXTプロジェクト

次世代の教育環境の提唱

目的

1. 学力の向上
2. 校務の効率化
3. 保護者・地域との連携

1. 私立3校 2. 公立1校
 3. 自治体 (和歌山市)

ICTの発達・普及を見据えた新しい教育環境の提唱

実証実験

NEXTプロジェクト

Microsoft

ソリューション開発

新しい教育モデルのデザイン

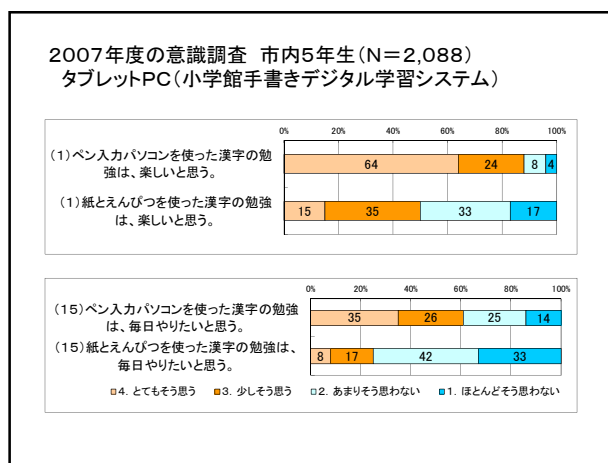
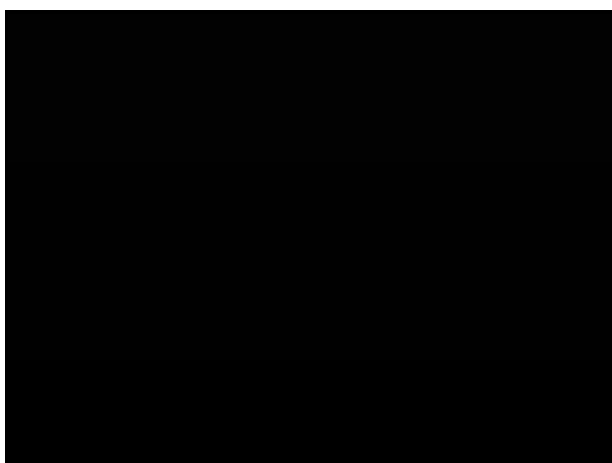
MS本社の「School of the Future」, 「Innovative Schools Program」と連携

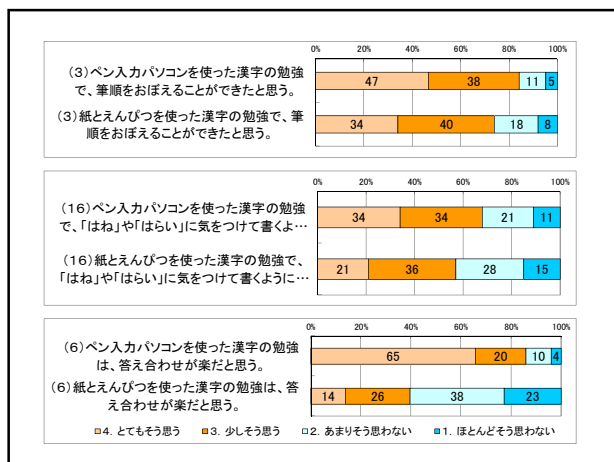
他校への普及

パートナー協業

大学との連携

●詳細はこちら <http://www.microsoft.com/japan/education/next/>





2008年度の調査内容

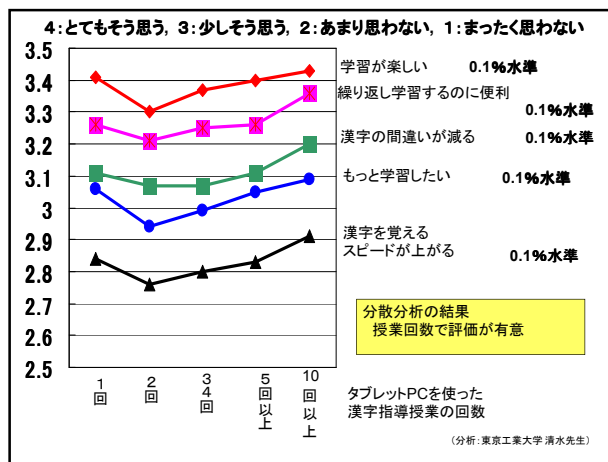
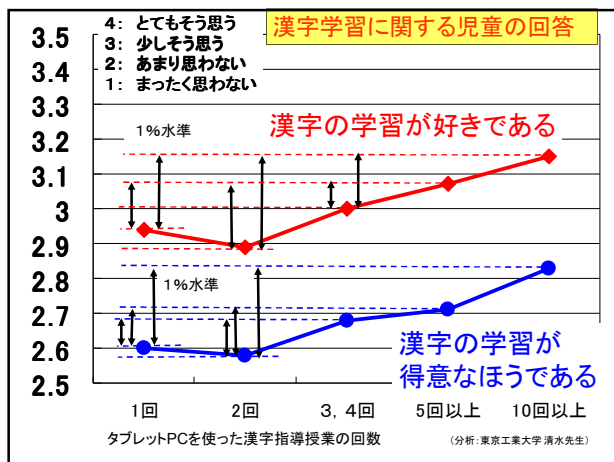
調査	対象	方法	具体的内容
A 実証授業	児童 (2,348名)	意識調査	各教科の観点別評価に基づくアンケート (4段階評定)
		客観テスト	複数のテスト内容 (各教科の観点別評価)
	授業者 (86名)	記述内容	観点別評価・授業での感想
		授業への評価	目標達成や学習成果への総合評価
B	児童 (3~6年) 13,515名	意識調査	TPC活用による漢字学習の感想 (4段階評定)
	教員 1,048名	意識調査	TPC活用による漢字指導の評価
	教員 1,048名	意識調査	ICT活用指導力に関する調査



児童の回答数 (漢字学習授業後)

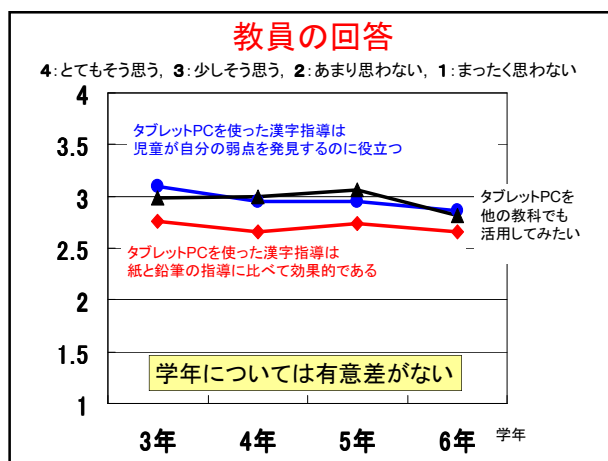
実施した授業の回数	回答数
1回	2,726 人
2回	3,344 人
3, 4回	2,565 人
5回以上	1,130 人
10回以上	659 人
計	10,424 人

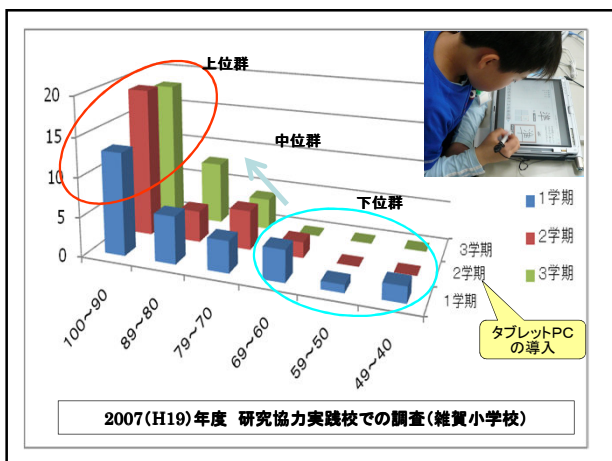
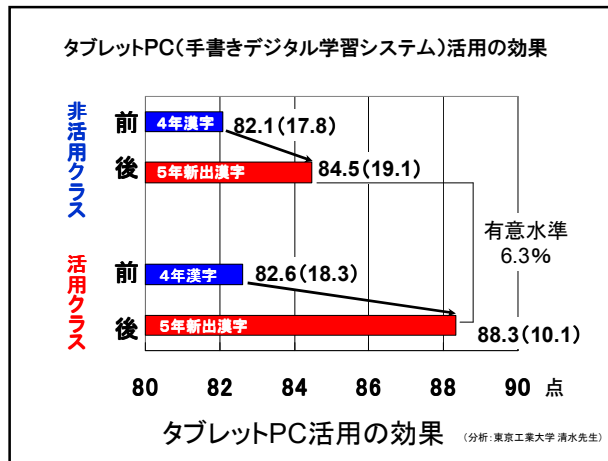
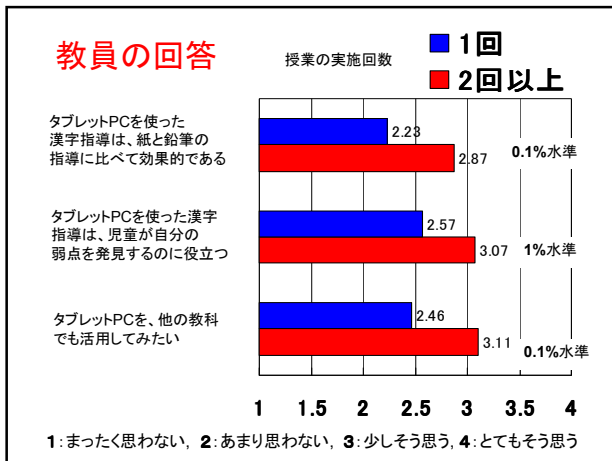
(有効回答数)



教員の回答数 (漢字学習授業担当)

学年	回答数	学年	回答数
3年	83 人	授業を実施していない教員	230人
4年	80 人	1回の授業を実施した教員	124人
5年	78 人	2回以上の授業を実施した教員	226人
6年	93 人		
計	334人	計	580人





- ### 和歌山市Wプロジェクトの研究成果
- マイクロソフトとの共同研究による成果—
- ① **人材育成の効果(所員活動)**
 タブレットPCの先進的研究
 ⇒研究成果の蓄積、人材育成
 - ② **研究協力実践校での成果**
 ⇒タブレットPC効果的活用
 思考・判断・表現力育成に効果
 - ③ **市内全体でのICT活用の促進**
 ⇒基礎学力向上(効果の実感)
 - ④ **教員のICT活用指導力の向上**
 ⇒教員の意識の変容
 教員研修へのニーズの向上
 (集合研修、訪問研修、e-ラーニング研修、ICTスキルアップオンライン研修等)

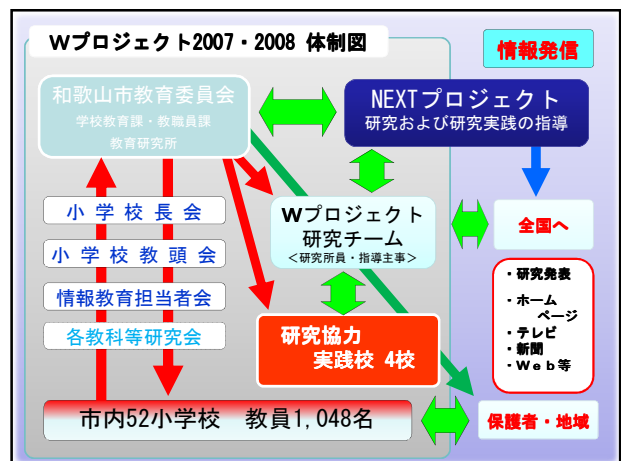
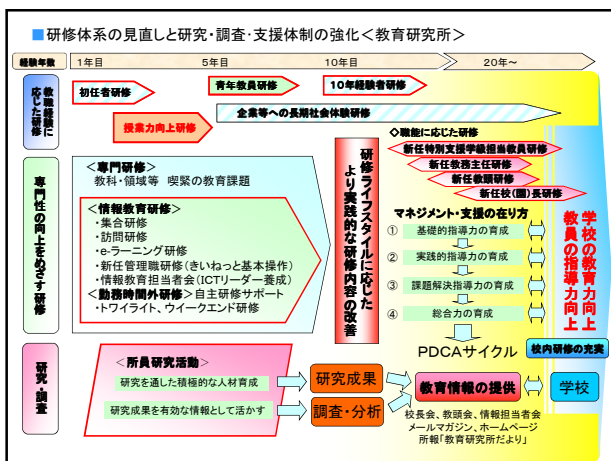
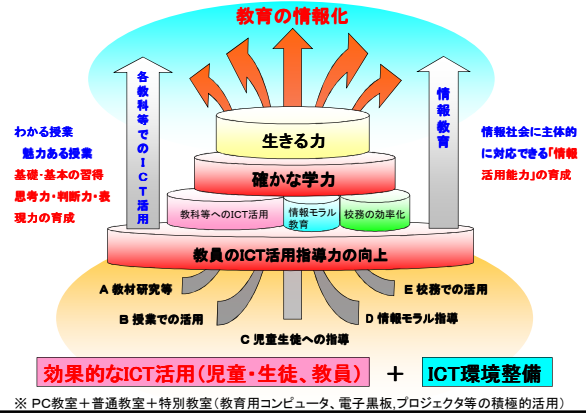
2. 教育の情報化を推進するWプロジェクト

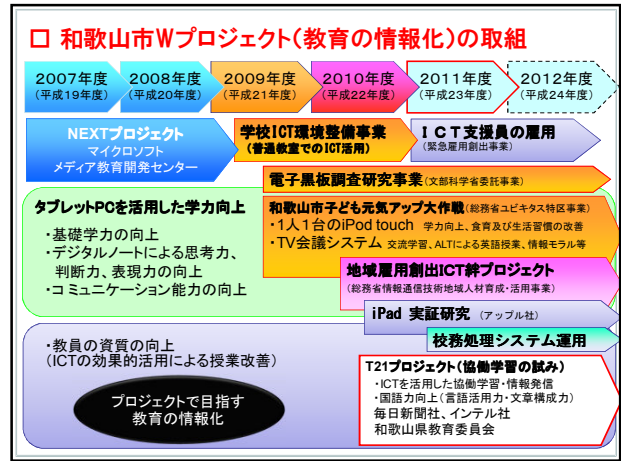
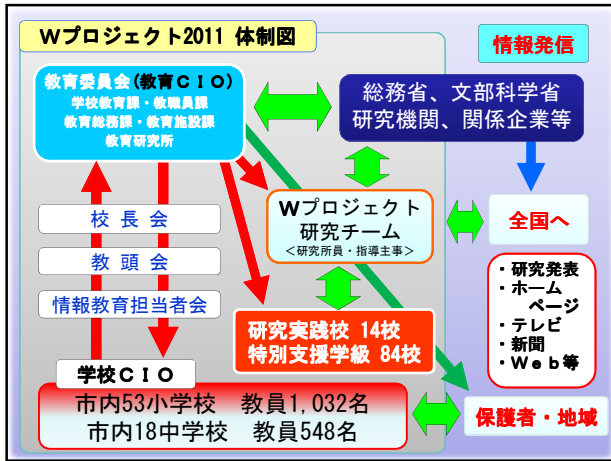
□ 教育研究プロジェクトとして取り組むメリット
プロジェクト=独自性を創造する有期的な取組

- ◆ 目的・目標を明確にした短期の協働事業
- ◆ 共同研究の実施(研究開発、実証研究フィールド)
- ① 単独では実現できない大きな成果
- ② 関係機関、企業等のノウハウを享受
- ③ 組織改革によらない元組織の活性化

- ポイント**
- > ビジョンの明確化(目的⇒目標⇒到達点)
 - > 事業の企画・経過・目標・成果の見える化
 - > 情報を正しく伝えるコミュニケーション力
 - > リーダーシップとマネジメント力

教育の情報化をめざす和歌山市Wプロジェクト(概念図)





和歌山市Wプロジェクト研究指定校一覧(公募)

事業名	所管	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
「ICTを活用した学力向上のための研究」研究指定校	和歌山市	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 ※PC教室児童1人1台	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校	四箇郷小学校 有功東小学校 雑賀小学校 宮小学校 雄湊小学校
ユビキタス「和歌山市子ども元気アップ大作戦」研究指定校	総務省	研究協力実践校 研究協力校 ※市内小学校特別支援学級	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校	有功小学校 四箇郷小学校 雑賀小学校 雄湊小学校
「情報セキュリティポリシー策定」研究指定校	和歌山市			西和中学校 東和中学校	西和中学校 東和中学校	西和中学校 東和中学校	西和中学校 東和中学校	西和中学校 東和中学校
電子黒板活用研究協研究指定校	文部科学省			貴志中学校 有功東小学校	貴志中学校 有功東小学校	貴志中学校 有功東小学校	貴志中学校 有功東小学校	貴志中学校 有功東小学校
「21世紀型スキルを育む教育の研究」絆プロジェクト(みらい学校)	総務省			貴志小学校 雄湊小学校	貴志小学校 雄湊小学校	貴志小学校 雄湊小学校	貴志小学校 雄湊小学校	貴志小学校 雄湊小学校
「フューチャースクール推進事業」	総務省 文部科学省			藤戸台小学校	藤戸台小学校	藤戸台小学校	藤戸台小学校	藤戸台小学校

和歌山市Wプロジェクト

研究指定校での取り組み


研究チーム(研究所員)による研究

ICTの先進的な活用研究

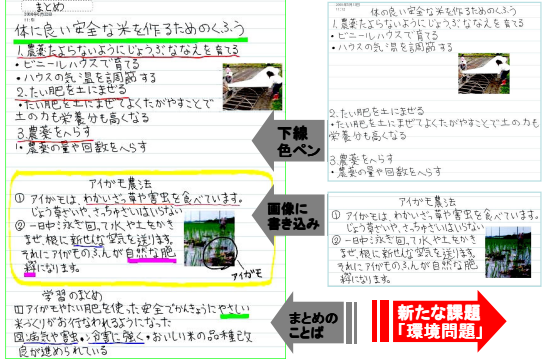
①「伝える活動を重視した社会科教育におけるタブレットPCの活用」<社会科> (雑賀小学校 岡本)

タブレットPCとデジタルノートの活用

- ・ タブレットPC
ペン機能(手書き入力機能)
- ・ デジタルノート
(Microsoft One Note)
画像の貼り付け・拡大・縮小・配置の変更
ライブ共有セッション機能(情報の共有機能)



①「伝える活動を重視した社会科におけるタブレットPCの活用」
One Note でまとめたノート



まとめ
体に良い安全な米を作るためのくふう
1.農薬をできるだけ減らす
・ビニールハウスで育てる
・ハウス内の温度を調節する
2.たい肥を減らす
・たい肥を土にまぜておくがやみこいで土の力も栄養分も高くなる
3.農薬を減らす
・農薬の量や回数も減らす

アイカモ農法
① アイカモは、わかいよ草や害虫を食べています。じゅうんやいば、そのかさいはいじない
② 一畝に数を回して水や土をかきまぜ、根に肥料の空気を送ります。それにアイカモのぶんが自然の肥料になります

学習のまとめ
④ アイカモはたい肥を使わず安全でおいしい米づくりが行われるようになった。国産米や農産物の量に強く、おいしい米の品種改良が進められている

新しい課題「環境問題」

Microsoft Innovative Teachers Conference 2009, MalaysiaでWプロジェクトを紹介



Let us communicate and disseminate
Communicate with each other and disseminate efforts: Study plans, using the OneNote for sharing function. Also to publish the study with publication.
Identify and solve problem areas that need to be improved

Effective use of OneNote
Students prepared report freely using OneNote
Organize information, information and create what you want to share online
Personalize the information
Access easy to use information in a flexible manner

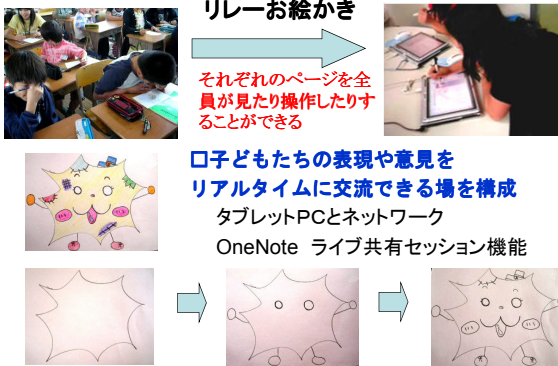
From the study of rice farming to that of environmental issues
Make a poster to solve the environmental issues in better layout
Share the information
Disseminate widely to society

②「表現を共有し互いに学び合える場の学習効果」<図工科>

↓ 紙ベースでの活動 ↓ ネットベースでの活動

リレーお絵かき
それぞれのページを全員が見たり操作したりすることができる

子どもたちの表現や意見をリアルタイムに交流できる場を構成
タブレットPCとネットワーク
OneNote ライブ共有セッション機能



②「表現を共有し互いに学び合える場の学習効果」<図工科>

OneNoteのライブ共有セッション機能



- アンケート(ネットベースのいい点)
- 途中で自分の作品が見られる(11人)
- 共有することの効果
- 色ペンが使える。(15人)
- 消し跡が残らない。(6人)
- TPCを使うことの効果

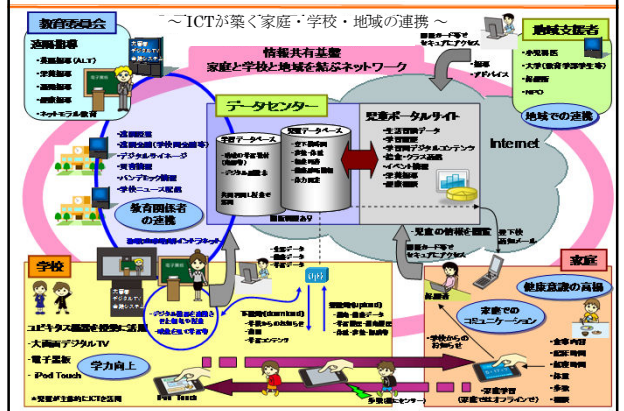


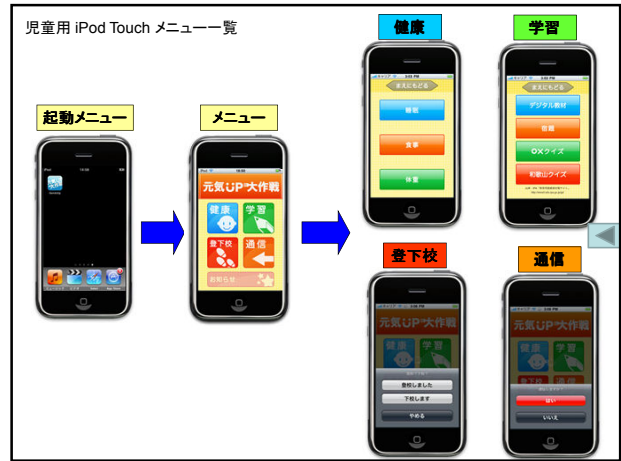
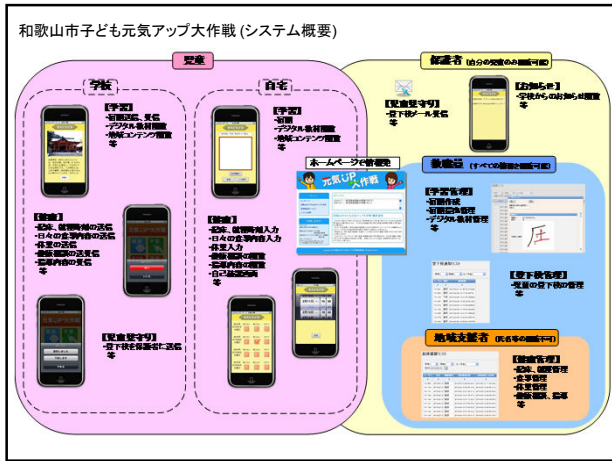
6th APAC Regional Innovative Education Forum 2010, Singapore でWプロジェクトを紹介

和歌山市教育の情報化Wプロジェクトの取組

- 2007年度 小学校教育用コンピュータシステムの更新
タブレットPCを全国に先駆けて約1300台を導入
「ICTを活用した学力向上のための研究」Wプロジェクト
「NEXTプロジェクト」に参加 (MS&メディア教育開発センター)
教員研修体制の強化・内容の充実
- 2008年度 タブレットPCの教育効果の実証研究 (大規模調査)
NEXT・Wプロジェクト実証研究の成果発表
- 2009年度 「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」(文部科学省)
全教室に電子黒板を整備し、その効果の実証研究(モデル校2校)
「和歌山市子ども元気アップ大作戦」(総務省ユビキタス特区事業)
研究協力校、市内特別支援学級で活用研究(iPod touch 850台)
「学校ICT環境整備事業」(文部科学省)
各校1台の電子黒板、教育用PC、校務用PC、プロジェクタ等を整備
- 2010年度 「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」(総務省)
電子黒板、タブレットPC、デジタル教材、ICT支援員を整備

総務省ユビキタス特区事業「和歌山市子ども元気アップ大作戦」H21





元気じP 大作戦

テレビ会議システムを活用した遠隔授業 <http://www.wakayamagenkiup.jp>

(外国語活動)

How are you?
I'm from...
I am great!
How are you?
Good!

<http://www.cisco.com/web/JP/solution/casestudy/index.html>

**文部科学省
電子黒板調査研究事業**
— 研究成果の共有 —

教科書の問題や資料集の図などを大きく映す
・教材の準備時間が減らせる
・子ども達の視線を集めることができる

児童の発表時に資料やノートを大きく映す
・児童の資料作成の時間を短縮
・写真や絵もよく見えるのでわかりやすい発表になる

一斉指導で説明するのが難しいものを大きく映す
グラフのかき方・分度器のメモリの見方・漢字テストの答なども一目でわかりやすく説明ができる

理科の実験などを静止画や動画で撮影しておき、後で拡大提示する
実験結果について発表したり、話し合ったりするときに役に立つ

理科の演示実験を大きく映す
細部や見せたい場面をわかりやすく提示できる。

デジタルコンテンツの活用
今はネット上に豊富にコンテンツがあるので、うまく使えば、わかりやすい・楽しい授業になる

自作のパワーポイント教材の活用
教材作成に時間がかかるが、授業の流れに適した提示ができる

授業で活用したデジタルコンテンツを休み時間も操作できるようにしておく
自主的に学習した内容を復習する子どもたちが現れる。

子どもたちの反応

アンケート項目	4	3	2	1
1 授業で電子黒板を使った方がいいと思いますか	74%	26%	0%	0%
2 電子黒板を使った方が進んで学習できると思いますか	89%	11%	0%	0%
3 電子黒板を使った方が発表しやすいと思いますか	67%	19%	15%	0%
4 電子黒板を使った方が発表したいと思いますか	48%	26%	26%	0%
5 電子黒板を使った方が友だちの意見がよくわかると思いますか	78%	19%	4%	0%
6 電子黒板を使った方が先生の話がよくわかると思いますか	67%	33%	0%	0%
7 電子黒板を使った方が授業に集中できると思いますか	48%	52%	0%	0%
8 電子黒板を使った方が学習内容がわかりやすいと思いますか	63%	30%	7%	0%
9 電子黒板を使った方が楽しく学習できると思いますか	63%	33%	4%	0%
10 電子黒板を使った方が話し合いが活発になると思いますか	48%	33%	19%	0%
11 電子黒板を使った方が自分にあった方法やスピードで学習を進めることができると思いますか	56%	33%	11%	0%

4. たいへん 3. 少し 2. あまり 1. まったく

子どもたちの反応

自由記述から	記入人数
勉強がわかりやすくなった	14
図や表が見やすくていい	4
色を変えたりできて分かりやすくなった	2
楽しく勉強できる	2
友だちの意見がわかりやすい	2
いろんなのを映せるから便利	1
プロジェクターより見やすいから勉強しやすくなった	1
黒板でできないことができるのでいい	1
使いやすい(算数のとき)	1
勉強が早くできる。特に算数	1
黒板だと書く時間がかかるが、電子黒板だと早く問題ができる	1
がめんが大きくなったので見やすくなった	1
算数の勉強で図が大きくなるからいい	1

アンケート回答数 27人

電子黒板の弱点

- ◆ペン機能が書きづらい
- ◆手書きできるスペースが狭い
- ◆日の当たり方によって見にくい時がある
- ◆PCの不具合等、機械の調子が悪く手間取ることがある
- ◆台数が少ない学校では、セッティングが面倒

平成23年度文部科学省委託

国内のICT教育活用好事例の収集・普及・促進に関する調査研究

財団法人日本視覚教育協会 / 日本視覚教育員連合会

研究概要 各ブロック情報 実践事例 リンク集



主催：文部科学省・和歌山県教育委員会・和歌山市教育委員会

教育ICT活用実践研究 一関西ブロック発表会一

平成23年12月9日(金) 13:30~17:00
和歌山市立有功東小学校

平成21年度学校ICT環境整備事業

■小・中学校

教育用コンピュータ (各学年1台・特別支援学級)

プロジェクタ・スクリーン (各校1台)

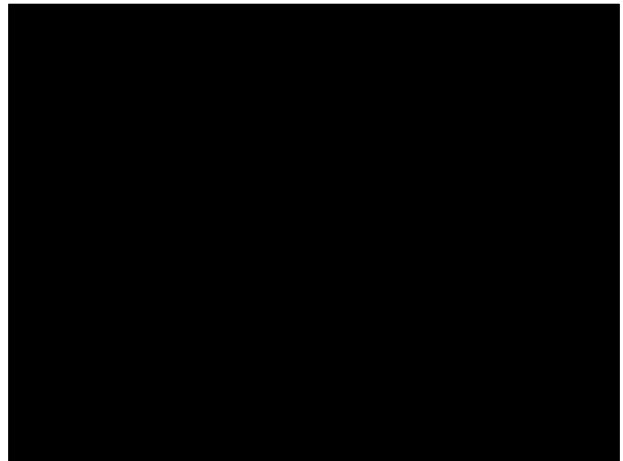
一体型電子黒板 (各校1台)

■小学校

同軸LAN機器による校内ネットワーク (各普通教室・特別教室・特別支援学級)

ユニット型電子黒板 (各校1台)

校務用コンピュータ (各校2台)



平成22年度学校ICT環境整備事業

■電子黒板周辺機器 (小・中学校) アナログコンテンツのデジタル化

リンクプレイヤーシステム

書画カメラ(AV-355AF)

教材・資料等の拡大提示

協働学習(コラボノート)システム

テレビ会議(Skype用Webカメラ)

ATR-CALL(英語学習)

和歌山市Wプロジェクト2011 (コラボノートを活用した協働学習システムの活用計画案)

～ ICTを活用したわかりやすい授業の実現、豊かな教育活動の創造と豊かな学力の育成 ～

2011.1.28作成

コラボノート 関心・意欲の喚起、言語活用能力、思考力・判断力・表現力の育成

小学校 市内小学校 (53校2分校) の協働学習支援

学級内外での交流学習・協働学習・まとめ学習

中学校 市内中学校 (18校1分校) の協働学習支援

意見交換・交流学習・協働学習・共同研究

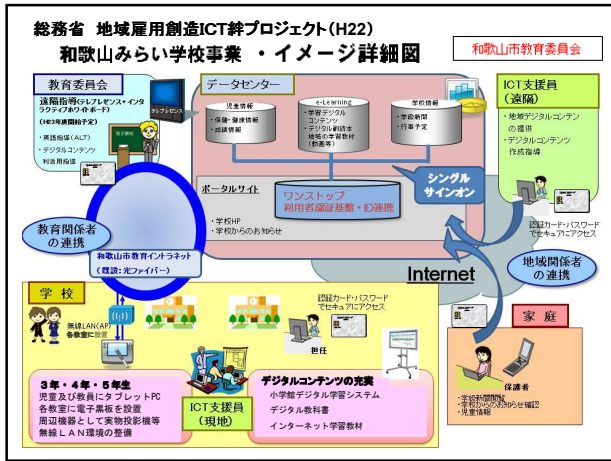
国語力向上 ↔ 活用・探究型学習の設定

T21プロジェクト T21プロジェクト (インテック株式会社、和歌山県教育委員会および放送大学との教育現場におけるICT活用促進の協働プロジェクト) に参加し、共同研究を行う。『新聞づくり』を主とした県内外の学校との協働学習(参加: 那智勝浦町立色川小学校、有田町立修理川小学校、有田川町立西ヶ崎小学校、北山村立北山小学校)

毎日新聞東京支社 T21プロジェクトとの共同研究、「新聞づくり」のノウハウをプロの立場から分かりやすく指導。市内小中学校の研究校を中心に研究プログラムを実施。
アドバイザー: 毎日新聞社 (東京支社) 等

KERIS(韓国教育学術情報院) 韓国「青瓦台インターネット子ども新聞(プルンヌリ)」との共同研究。国際交流の場の設定。オンライン新聞の参加校募集、個人参加の募集 (ex. 優秀校、優秀作品の表彰) 市内小中学校の研究校を中心に研究プログラムを実施。

<まとめ学習・新聞づくり> ※ 21世紀型スキルとは、これからの時代に求められるICTの利活用、問題解決力、協働力、思考・判断力、コミュニケーション力などの基礎力のこと。



1. 教員のICT活用指導力の基準の具体化・明確化の必要性

「e-Japan戦略」(平成13年1月)の評価

目標の未達成	基準があいまい
平成18年3月現在、「コンピュータ等を使って指導できる教員」の割合は 76.8% (目標は100%)。	「コンピュータ等を使って指導できる教員」の定義：何らかの手段で少しでも(過去も含めて)コンピュータ等を活用した授業ができる教員

「IT新改革戦略(平成18年1月)」へ反映

2006年度までに教員のIT指導力の評価の基準の具体化・明確化を行い、全ての教員のIT活用能力を向上させる。

平成18年10月

「教員のICT活用指導力の基準の具体化・明確化に関する検討会」の設置

□教員のICT活用指導力調査を活かすために

※年度当初と年度末に調査を実施

- ⇒先生方の研修参加のためあてがもてる。
- ⇒取り組みの成果が実感(視覚的)に捉えられる。
- ⇒学校全体としての課題が明らかになり、研修計画、サポート体制の具体的な取り組みが可能となる。
- ⇒市全体の施策を構築する基礎資料となる。

・個人のデータは個人情報だが、全体のデータは教育力の指標となる。(何が出来るかによって、ICT活用の幅が限られる。)

・子どもたちがICT活用の恩恵に授かるためには、教員のICT活用指導力が大きく影響してくる。(研修と活用は車の両輪)

2. 教員のICT活用指導力の基準について

「小学校版」、「中学校・高等学校版」の2種類を作成

「4: わりにできる」「3: ややできる」「2: あまりできない」「1: ほとんどできない」の4段階で自己評価。

5つの大項目と18のチェック項目から構成

＜5つ大項目＞

- A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力
- B 授業中にICTを活用して指導する能力
- C 児童生徒のICT活用を指導する能力
- D 情報モラルなどを指導する能力
- E 校務にICTを活用する能力

チェック項目だけではICTを活用した指導場面をイメージできない場合は、具体的な指導例を参照して適切に自己評価を実施。具体的な指導例はWebページを参照。(URL: <http://tab-ict.nime.ac.jp/>)

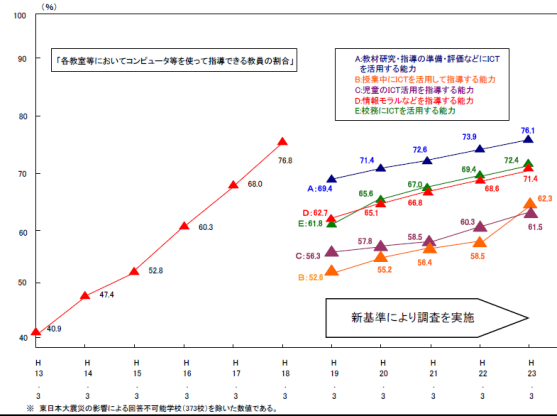
チェックリストのURL (<http://www.next.go.jp/b/mem/shinri/shousa/shotoku/039/index.htm>)

平成22年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果

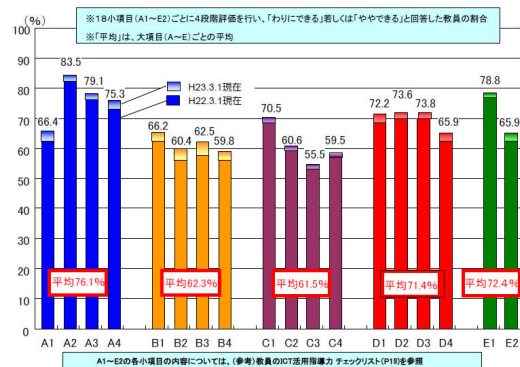
〔速報値〕
(平成23年3月現在)

平成23年7月
文部科学省

1 教員のICT活用指導力の推移



2 教員のICT活用指導力の状況(18小項目別・全校種)

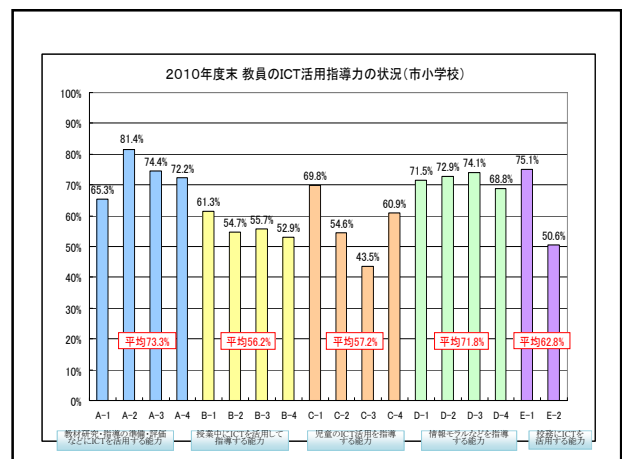
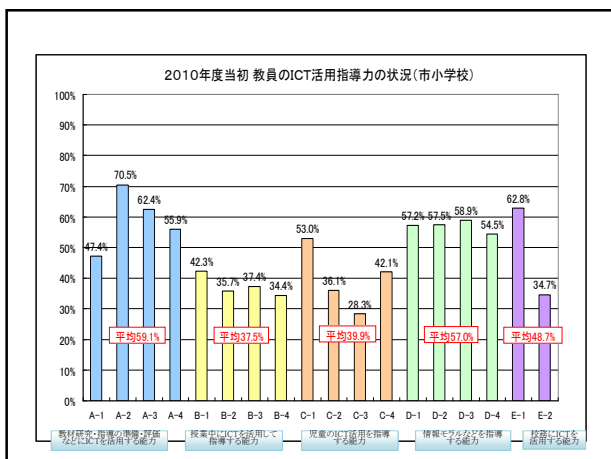
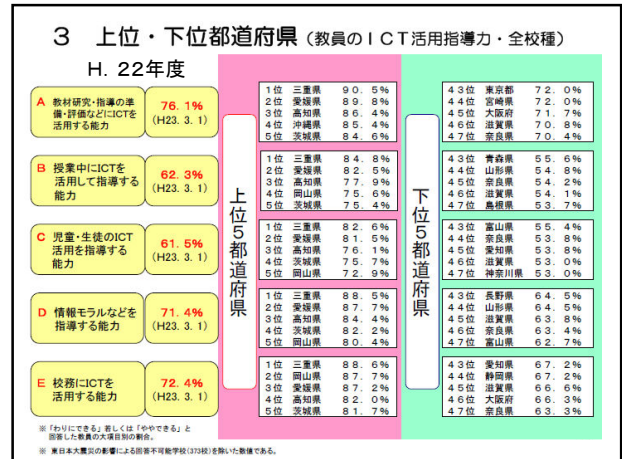
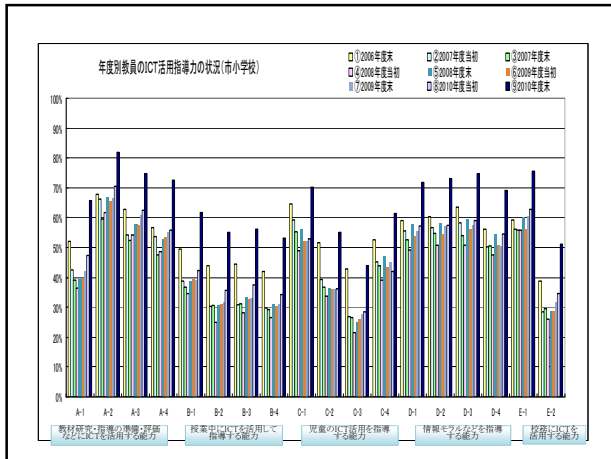


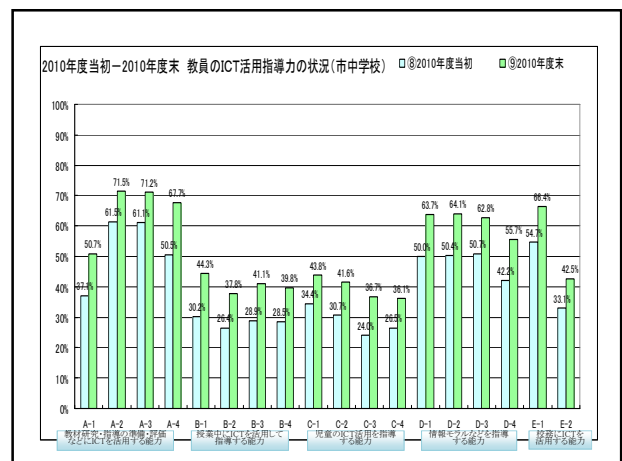
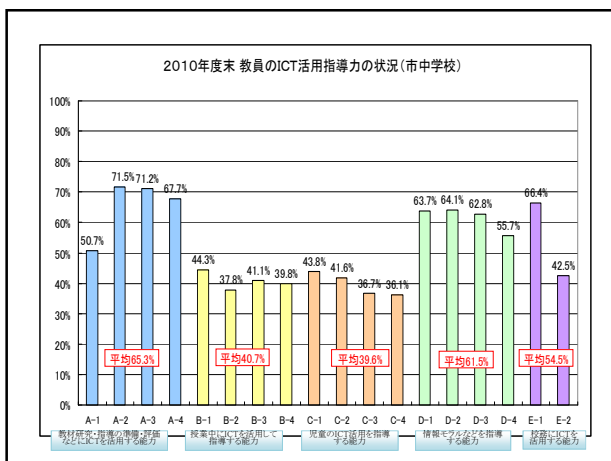
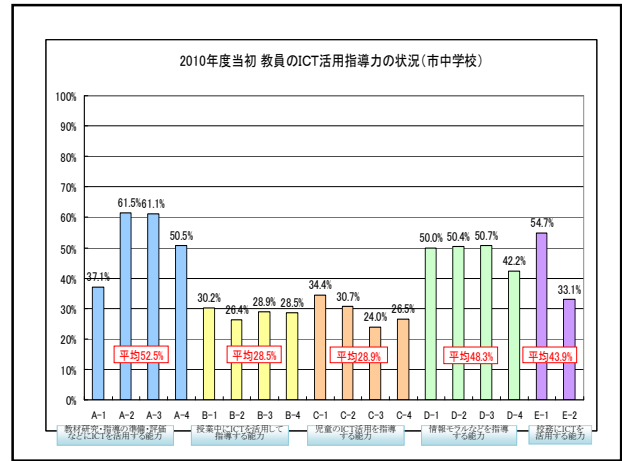
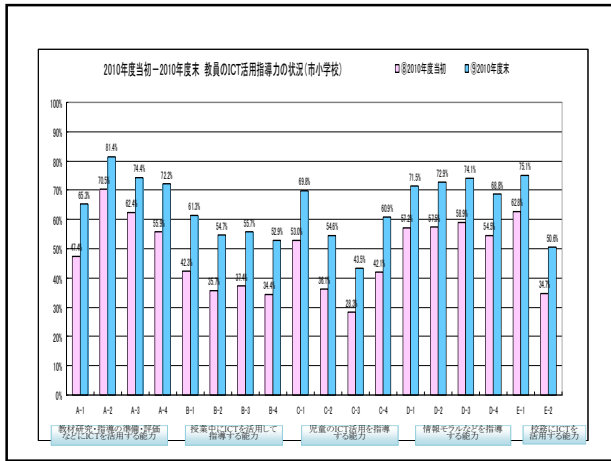
3 上位・下位都道府県(教員のICT活用指導力・全校種)

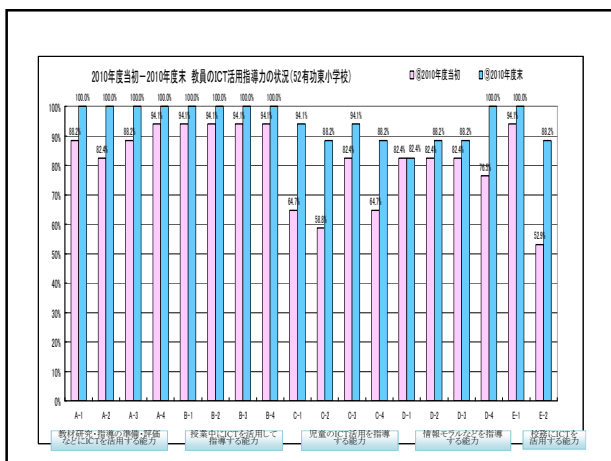
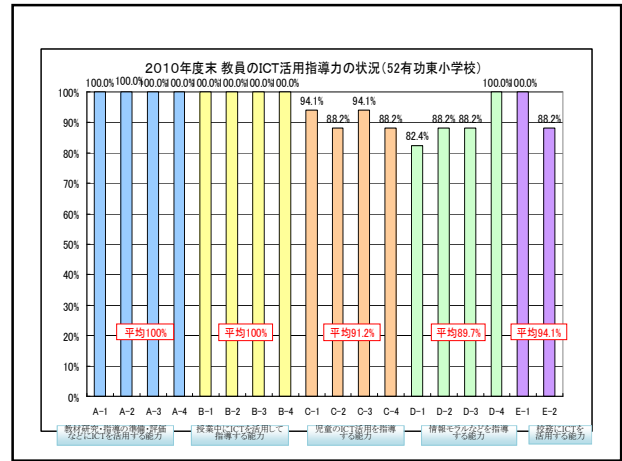
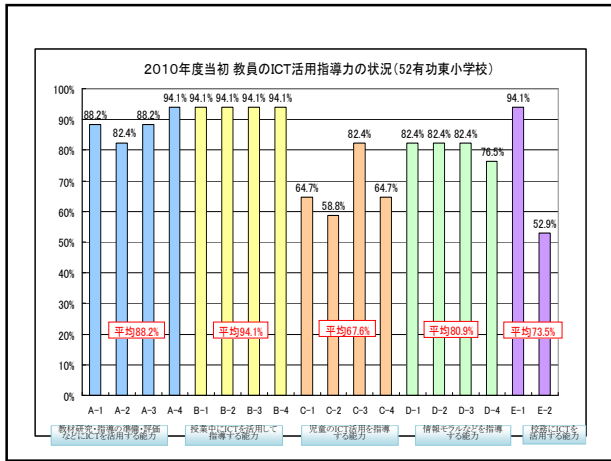
H. 21年度

能力項目	全国平均 (%)	上位5都道府県	下位5都道府県
A 教材研究・指導の準備・研修などにICTを活用する能力	73.9% (H22.3.1)	1位 三重県 86.8% 2位 愛媛県 85.0% 3位 沖縄県 84.9% 4位 茨城県 84.4% 5位 京都府 83.1%	47位 和歌山県 67.9% 48位 千葉県 65.7% 49位 大阪府 69.3% 44位 滋賀県 69.3% 43位 鳥取県 69.4%
B 授業中にICTを活用して指導する能力	58.5% (H22.3.1)	1位 三重県 78.2% 2位 愛媛県 76.0% 3位 茨城県 75.5% 4位 京都府 72.6% 5位 沖縄県 71.8%	47位 和歌山県 60.5% 46位 千葉県 50.9% 45位 鳥取県 51.2% 44位 青森県 51.8% 43位 滋賀県 51.9%
C 児童・生徒のICT活用を指導する能力	60.3% (H22.3.1)	1位 三重県 78.0% 2位 愛媛県 76.6% 3位 茨城県 76.5% 4位 京都府 73.7% 5位 沖縄県 72.0%	47位 和歌山県 53.2% 46位 滋賀県 53.3% 45位 奈良県 54.0% 44位 愛知県 54.0% 43位 富山県 54.1%
D 情報モラルなどを指導する能力	68.6% (H22.3.1)	1位 三重県 84.0% 2位 愛媛県 82.8% 3位 茨城県 81.7% 4位 京都府 77.8% 5位 沖縄県 77.7%	47位 富山県 60.1% 46位 青森県 60.4% 45位 滋賀県 60.7% 44位 鳥取県 61.5% 43位 奈良県 62.0%
E 校務にICTを活用する能力	69.4% (H22.3.1)	1位 三重県 83.1% 2位 京都府 81.4% 3位 愛媛県 81.3% 4位 茨城県 80.9% 5位 沖縄県 77.8%	47位 和歌山県 60.5% 46位 千葉県 60.8% 45位 奈良県 62.7% 44位 大阪府 62.9% 43位 大分県 64.7%

※ 『わにできる』もしくは『ややできる』と回答した教員の占居割合の順位。







A先生と情報教育研修 (2009年度)

No.	年月日	研修名	研修カテゴリ	所属校	職名
1	2009/5/25	情報セキュリティ研修	小 DE	〇〇小学校	校長
2	2009/7/21	情報教育研修ワード①	小 ABCE	〇〇小学校	校長
3	2009/7/21	情報教育研修ワード②	小 ABCE	〇〇小学校	校長
4	2009/8/6	情報教育研修ワード③	小 ABCE	〇〇小学校	校長
5	2009/8/6	情報教育研修ワード④	小 ABCE	〇〇小学校	校長
6	2009/7/22	情報教育研修 エクセル①	小 CE	〇〇小学校	校長
7	2009/7/22	情報教育研修 エクセル②	小 CE	〇〇小学校	校長
8	2009/7/31	情報教育研修 エクセル③	小 CE	〇〇小学校	校長
9	2009/7/31	情報教育研修 エクセル④	小 CE	〇〇小学校	校長
10	2009/8/28	情報教育研修 ワード技	小 ABCE	〇〇小学校	校長
11	2009/8/28	情報教育研修 エクセル技	小 CE	〇〇小学校	校長
12	2009/8/4	マルチメディア活用研修 デジカメ	小 ABCE	〇〇小学校	校長
13	2009/8/4	情報教育研修 フレゼ①	小 ABCE	〇〇小学校	校長
14	2009/8/11	情報教育研修 フレゼ②	小 ABCE	〇〇小学校	校長
15	2009/8/11	情報教育研修 フレゼ③	小 ABCE	〇〇小学校	校長

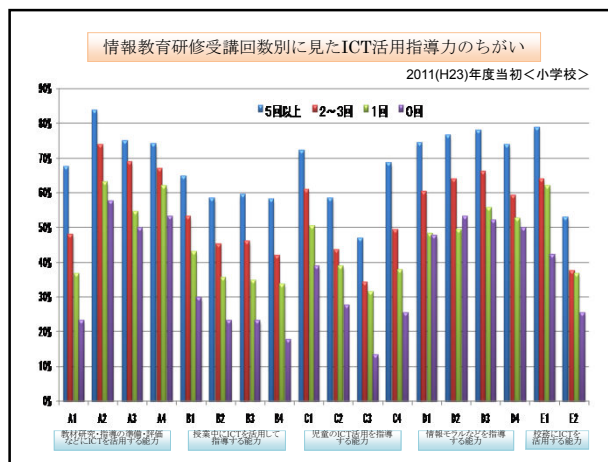
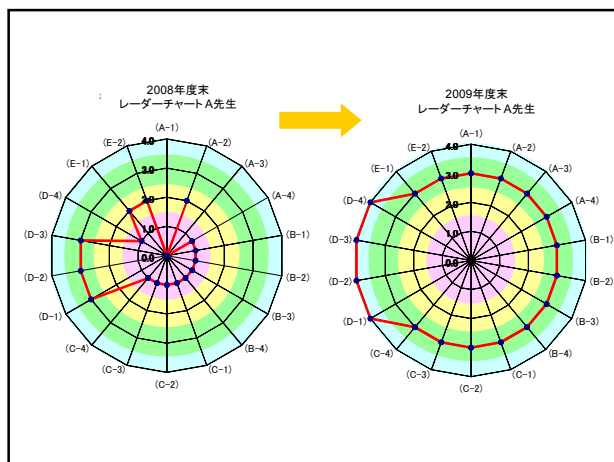
修了認定書

和歌山県〇〇小学校
和歌山 太郎様

あなたは平成21年度夏季情報教育研修マスターコースにおいてコースⅠ (Word 2007) コースⅡ (Excel 2007) コースⅢ (Photos PowerPoint 2007) を修了し ICT活用指導力A、B、Eを習得したことをここに証します

A 教材研究 指導の準備 研修中にICTを活用する能力
B 授業中にICTを活用して指導する能力
E 教師がICTを活用する能力

平成21年 9月 1日
和歌山県立教育研究所
所長 竹内 弘純

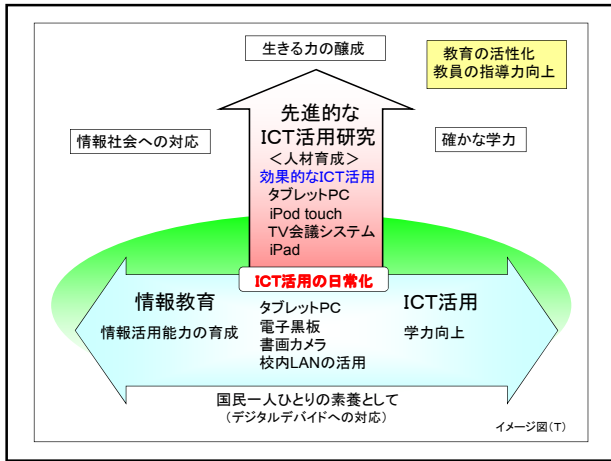


和歌山市Wプロジェクト

今後の取り組みとして

和歌山市教育の情報化Wプロジェクトの取組

- 2007年度** 小学校教育用コンピュータシステムの更新
タブレットPCを全国に先駆けて約1300台を導入
「ICTを活用した学力向上のための研究」Wプロジェクト
「NEXTプロジェクト」に参加 (MS&メディア教育開発センター)
教員研修体制の強化・内容の充実
- 2008年度** タブレットPCの教育効果の実証研究 (大規模調査)
NEXT・Wプロジェクト実証研究の成果発表
- 2009年度** 「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」 (文部科学省)
「和歌山市子ども元気アップ大作戦」 (総務省ユビキタス特区事業)
「学校ICT環境整備事業」 (文部科学省)
- 2010年度** 「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」 (総務省)
- 2011年度** 「センターシステム・中学校用コンピュータシステム更新」
TV会議システム28台、ICT支援員等
「フューチャースクール推進事業・学びのイノベーション事業」 (総務省・文部科学省)



和歌山市教育委員会と和太教育学部が連携協力の協定を締結



学生の教育実習などを通して、教職員の資質の向上をはかり、地域の教育課題に対応しようと和歌山市教育委員会と和歌山大学教育学部は、きょう(22日)、相互の連携協力に関する協定を締結しました。 **2011年2月22日**

国語力アップに“うちどく”
和歌山市教委が推進



おうちで読書、略して“うちどく”。子どもの活字離れや国語力低下が叫ばれる中、和歌山市教委はうちどく事業を1月にスタートさせた。子どもだけでなく、家族が本の感想を書き込む欄を設けた専用ノートを製作し、家族で本を話題に会話する時間を増やそうとの取り組みだ。市学校教育課は「『良いお話だね』心ほかほかするね』など家の人と感想を話し合うことで、伝える力が身につく。うちどくを通して、言葉の力を育む基盤を養ってほしい」と話している。

■和歌山市(推進開始:2011年1月)

そのうち「徳」するうちどく平成22年度「子育て創生事業」の一環として「そのうち『徳』するうちどく」をスローガンに推進。2011年1月、読書環境整備のため、うちどく用図書を購入し、市立の幼稚園13園、小学校52校、中学校18校、保育所24所、児童館0館に配布。

また、子どもたちが保護者や友だちと読書の思い出を記録・共有できるように、幼児用、小学校低学年・中学年用「うちどくノート」を、小学校高学年用と中学校用には「共読(ともどく)ノート」を配布。

さらに、2011年2月より「うちどく」講演会や和歌山大学との連携によるサテライト事業「うちどく講座」などを開催し、読書の重要性を理解しながら、親子で読書活動をすすめ、ともに育ちあう親子関係を築くことを目指している。

退職校長11人を教員の「指導員」に委嘱 2011年04月18日

和歌山市教委は本年度、教員の授業力向上を目指した研修を新たに実施する。その指導にあたる教員の委嘱が15日、同市西汀丁の教育文化センターで行われた。委嘱されたのは専門的知識を持つ退職校長11人。採用されて3、4年目のすべての小中学校教員122人と同研修を希望する教員を対象に、学級経営や授業構成・展開についての理論、技能について指導する。



本年度は、小学校教員は校内研修5回と集合研修1回、中学校教員は集合研修1回実施。大江嘉幸教育長は、新しい教員にとっては授業力や学級運営などは満足できる状況にならないなどの課題に触れながら「豊富な経験を生かした指導助言をお願いし、次の世代へバトンをつないでほしい」とあいさつ。指導員を代表し、片桐清司さんは「体力的にも不安はありますが、私たち11人が助け合い、この先生に出会えて本当に良かったと言われるような指導に努めたい」と語った。



郷土に誇りを 社会科の副読本改編

和歌山市小学校社会科研究会(福田光男会長)が編集し、市が発行している社会科の副読本「わたしたちの和歌山市」(B5版・100ページ)がことし大きく改編された。郷土和歌山を誇りに思ってもらおうと、「先人の働き」と題して世界的に活躍した松下幸之助ら偉人の紹介欄を拡大。同本は支援学校なども含め、市内61校に配布し、教科書と併用して活用されている。

同本は昭和48年に初版を発行。教科書では福岡市をモデル地区にしており、学習する上で児童らがイメージしにくいいため、教科書と併用する目的で作られている。

今回改編された偉人の紹介は、以前まで小さなコーナーでまとめて紹介していたが、同会は「郷土に誇りを持つには人を知るのが大事」とし、松下幸之助、川端龍子、高橋克己の3氏を採用。それぞれ数ページにわたって写真入りで、生まれから偉業を残すまでの歩みや苦労などを紹介している。また、児童が主体的に学習できるよう、子どものキャラクターが調べていく設定で、児童自身が本の主人公になれる工夫も凝らした。難しい語句は説明書きを入れたり、書き込めるようワークシートを入れたりと同1冊で学習できるようにも配慮した。

同本で校区調べのモデル校となっている同市坂ノ上丁の市立雄湊小学校3年生の授業では、本に載っている地図を見て、児童が遠足で行った経路や学校の位置などを話し合っ

て学習中。井上夏希さん(9)は「自分の知っているところが載ってて、比べられるのがいい」と笑顔で話していた。

＜2011年7月11日 わかやま新報＞

